（資料）■ HBV感染防止へ向けての取組み ■

針刺し事故後のHBV感染防止対策

針刺し事故などによって、HBV 陽性の血液に汚染された場合の感染防止対策は以下の手順で実施します。

1 針刺し事故を起こした本人（被汚染者）は、できるだけ速やかに流水中で血液を搾り出します。それにより、汚染血液の血中への侵入を最小限にとどめます。

2 上司に報告します。

3 被汚染者に対して HBs 抗原と HBs 抗体の検査を実施します。

- HBs 抗原・HBs 抗体ともに陰性の場合
- HBs 抗原・HBs 抗体いずれかが陽性の場合 ※（→裏面）
  - 今回新たな感染はありません。

4 HBs 抗原・HBs 抗体ともに陰性の場合には、高力価 HBs ヒト免疫グロブリン（HBIG）を遅くとも 48 時間以内に接種し、感染を予防します。

5 さらに HBV 陽性である患者さんの血液について、HBe 抗原、HBe 抗体を検査します。

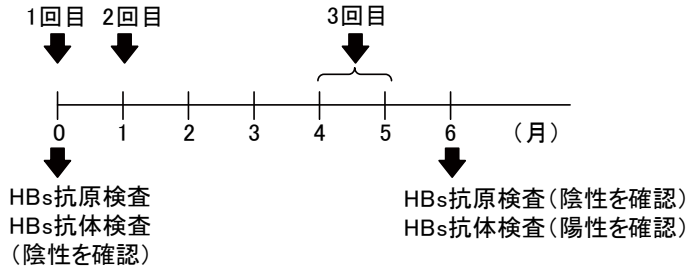
- HBe 抗原陽性の場合
  - 直ちにＢ型肝炎ワクチンの接種を併用します。　接種は、プログラム（図 2→裏面）にしたがって 3 回実施し、3 回目終了後に、HBV 感染予防に成功したこと（HBs 抗原陰性）、および HBV に対する免疫を獲得したこと（HBs 抗体陽性）を確認します。
- HBe 抗体陽性の場合
  - HBIG の接種のみでほとんどの場合は予防可能であることがわかっていますが、この場合でも HB ワクチンを併用して予防に万全を期しておくことが望ましいと考えられます。

『HBV とＢ型肝炎 Ｑ＆Ａ（広島県地域保健対策協議会 慢性肝疾患対策専門委員会、2006 年 4 月）』から抜粋　一部改変

このように、HBIG と HB ワクチンとの併用により、HBe 抗原陽性の場合も含め、そのほとんどが予防可能であることが証明されています。

※：
HBs 抗原陽性⇒HBV キャリア
HBs 抗体陽性⇒感染は防御されます

図２ HBVワクチン接種プログラム



『HBV とＢ型肝炎 Ｑ＆Ａ（広島県地域保健対策協議会 慢性肝疾患対策専門委員会、2006 年４月）』から抜粋

社団法人 広島市医師会 臨床検査センター
〒730-8611 広島市中区千田町３丁目８番６号
コールセンター： ☎ 0120-14-7191 / 082-247-7191
学術データインフォメーション： ☎ 0120-14-8734 / 082-247-4325